

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 東秩父村

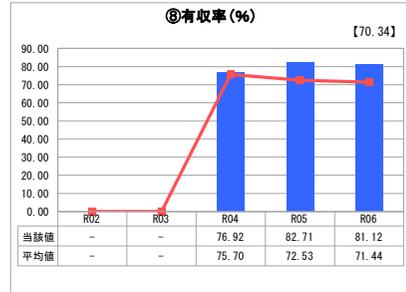
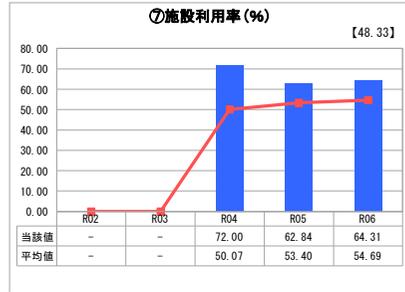
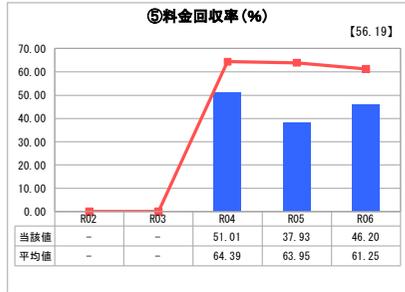
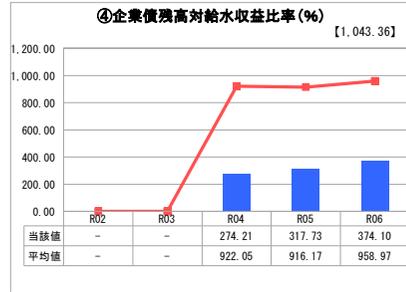
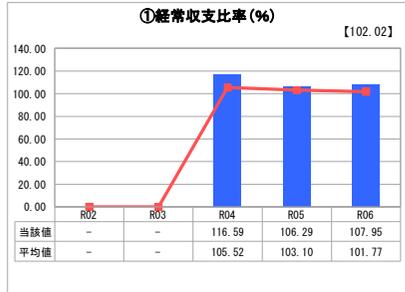
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	G3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	87.60	97.53	2,948	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,406	37.06	64.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,326	9.37	248.24

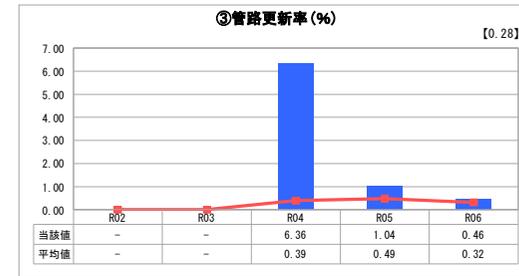
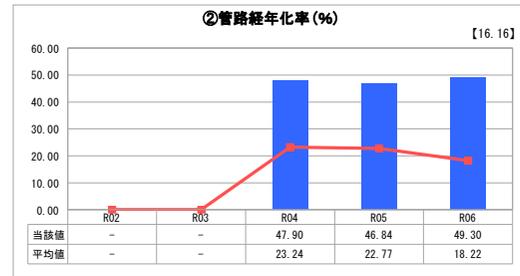
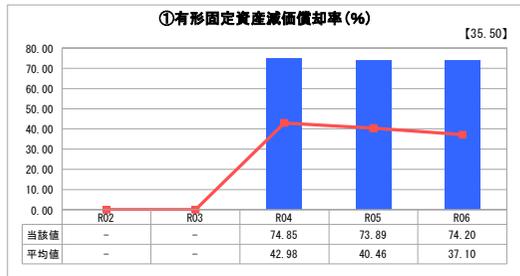
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度より公営企業会計に移行し法適用（一部適用）となったため、令和3年度以前の数値は表示されていない。①平均値を上回っているが一般会計繰入金金の依存が高い状況のため、今後更なる費用削減や更新投資等の財政確保及び適切な料金収入の確保が必要である。②累積欠損金比率は発生していないが、一般会計からの基準外繰入金額が増加しているため使用料の改定等が必要である。③流動資産が流動負債を上回っており、平均値と比べてもほぼ同数値となっている。④令和5年度から企業債の借入を実施したため、企業債残高が増大している。今後も企業債の借入を実施する予定なので投資規模、料金水準が適切であるか見極めていく必要がある。⑤令和6年度は水道料金の減免を実施しなかったため、前年度に比べ回収率は増加しておりますが、給水人口の減少等により料金収入の大幅な増加は平均値より下回っております。⑥平均値を上回っており、今後も物価・人件費の高騰及び施設の老朽化に伴う修繕が多発しているため、給水原価のさらなる増加が予想されます。⑦平均値を上回っておりますが、前年度と比較すると有収率の減少により、配水流量が上がったことに伴い施設利用率が上昇しています。施設の現状分析や将来の給水人口等を踏まえ、適切な施設規模にするため統廃合やダウンサイジングの検討し水道施設の再構築を実施していきます。⑧老朽化の布設替えや漏水調査を実施することにより、有収率は80%以上を維持していますが引き続き有収率が向上するよう努めていきます。

2. 老朽化の状況について

①平均値を大きく上回っており、施設の多くが耐用年数に近く老朽化が進んでいることが分かります。全てを更新するのではなく統廃合やダウンサイジングを行い経営状況も鑑みて対応します。②平均値を大きく上回っており、管路が老朽化していることが分かります。自主財源だけでなく国庫補助金等を用いて管路更新を行い、経年化率の改善を目指します。③補助金等を活用し工事を実施しましたが、管だけでなく施設更新にも多額の支出があったため、前年度と比較すると減少しています。施設更新時期を鑑み施設の統廃合、管路の適正化等について財政状況を勘案し、更新投資を進めていく必要があります。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、良好な指標もありますが、実際は他会計補助金が収入の約半分を占めている等課題があります。また、老朽化、耐震化等の施設の更新費用が今後増大することが見込まれるため、補助金を活用し施設整備等の更新を行います。今後も健全な事業運営を継続していくために、東秩父村簡易水道施設整備計画に則り効率的に施設整備等の更新を進めていかなければなりません。本村は、自己水源で水を供給していかなければならないため、事業の分析・評価・課題抽出を行い、中長期的な視点から安定した水道事業の運営をしていく必要があります。